

国際貢献へ全職員参加し「支援グループ」結成

備前一宮郵便局 ボランティア活動の輪を広げる中核に

郵 政

岡山を東のジュネーブに 緊急救援基地作る壮大な夢

備前一宮郵便局（岡山市）は全職員参加の「ボランティア活動支援グループ」を結成、旧ユーゴスラビア紛争の被災者救援を始め地域活動に局挙げて取り組んでいる。郵政省は六年前に「国際ボランティア貯金」を創設するなど事業を通じた国際貢献に力を入れており、村野陽治局長も「地域に根ざした郵便局づくりの一つの手段として国際貢献（ボランティア活動を選んだ）」とグループ結成の意義を説明する。ボランティア活動は誰にでもできるから一人ひとりの小さな善意を集めて大きな輪にする中心的役割を郵便局が担う、そのことが地域住民に一層信頼される郵便局づくりにつながるという考えだ。二一世紀社会の大きな特徴は国際化と高齢化と言われるなかで、村野局長は「福祉向上のボランティア活動などを大きな柱に、市民生活の拠点としての郵便局の存在がますます重要になる」とその将来像を描く。

旧ユーゴ紛争救援でタオル集め 活動参加を職員育成に役立てる

「支援グループ」は昨年二月、三〇人の全職員に隣接郵便局からも五人参加して発足した。たまたま区域内に、医師や看護婦約一〇〇〇人で組織するボランティア団体・アジア医師連絡協議会（AMDA）本部があり、阪神大震災などの救援物資区分け・発送などを何人かの職員が個人的に手伝うなかで郵便局挙げての支援体制ができた。

同じ時期に旧ユーゴ紛争の医療救援に当たったAMDAスタッフから現地の窮状を聞き、日常最も不足しているタオル集めを始めた。手作りのボスターを窓口に張り出し、隣局の協力もあって三〇〇〇本以上が寄せられ早速現地に届けられた。当面はAMDAの救援プロジェクトに属し、資金づくりや労力援助などの活動に取り組むという。

郵便局が地域のオピニオンリーダーとして活動

することで郵便局の理解者が増え、地元における郵便局の存在感が高まる。村野局長自身が地域活性化推進委員を務めるほか、全職員が地域興しイベントに参加して国際ボランティア貯金をPRしたり、「全国いちのみやフェスティバル」で地域間交流を図るなどの活動を展開している。同郵便局が職員挙げての参加を重視するのは、こうしたボランティア活動に情熱を持って取り組むことが一人ひとりの個性を引き出し、能力を発揮させる絶好の場となると考えているからだ。

村野局長は岡山県内のボランティア団体や行政で組織する「国際貢献岡山トピア構想を推進する会」の実行委員でもある。岡山を「東のジュネーブ」としてNGO（非政府組織）の中心地にし、岡山空港に緊急救援物資ステーションを作って世界どここの災害にも素早く対応しようという構想。市民生活の拠点としての郵便局が国際ボランティア活動推進の一つの核になってこの計画実現に協力していく、備前一宮郵便局の夢は大きい。